

聖陵 Sei-Ryou

CONTENTS

2011.3 Vol.14
盛岡大学聖陵同窓会報

発行者／盛岡大学聖陵同窓会
事務局／〒020-0183

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込808 盛岡大学内

電話.019-688-5555

ホームページアドレス

<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/index.html>

■ 同窓会長あいさつ	1	■ 事務局便り	4
■ 学長あいさつ	1	■ インフォメーション	4
■ この春、盛岡大学は創立30周年を 迎えます—30年のあゆみー	2	■ 決算報告	4
■ 活躍する卒業生	3	■ 訃報	4
■ Wish～夢灯りに願いをこめて	4	■ 編集後記	4

同窓生の皆さんお元気でお過ごしですか？
私達の聖陵同窓会も、二十七期を迎えて
九千人を超える会員数に至る迄になつて
おります。
さて、盛岡大学は、栄養科学部の学部
増設に伴い、カレッジ（単科）からユニ
バーシティ（総合）へ名実共にステップ
アップして参りました。（校門のアーチ
ロゴも改築済み）
本年盛岡大学は、開学三十周年を迎
え期生の私が現在の盛附の校舎で開学
式・入学式を迎えてから三十年の歴史が
始まりました。

記念すべき本年は、聖陵同窓会会員の
皆様をお迎えし、ホームカミングデーと
して、学園祭の日程（十月十五～十六日
予定）と併せての御来校をお待ちしてお
ります。

次に、各地に広がる同窓会員のネット
ワーク化と相互親睦会を目的に支部の創
設を立ち上げて参ります。（スタートと
して関東支部を立ち上げ準備中です。）皆
様方におかれましては、支部創設等につ
いて、同窓会事務局へ御相談を頂ければ
助かります。

現在、在学生が恵まれた環境の中で育
ち、巣立つ就活活動で一部試練を抱えて
おります。会員の皆様におかれまして、この状況
を打破すべく、後輩の人生道づくりに御
助かります。

改めて、ここに至るまでの皆様の頑張り
に敬意を払いたいと思います。
さて、これも御承知のように、盛岡大学
は、本年度栄養科学部を設立し、複数学部
となり、collegeからuniversityの道を歩
みます。

みんなと手を取り合って、盛岡大学の
伝統を豊かなものにしようではありません
か。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年度は、本年度栄養科学部を設立し、複數学部
となり、collegeからuniversityの道を歩
みます。

改めて、ここに至るまでの皆様の頑張り
に敬意を払いたいと思います。
さて、これも御承知のように、盛岡大学
は、本年度栄養科学部を設立し、複數学部
となり、collegeからuniversityの道を歩
みます。

みんなと手を取り合って、盛岡大学の
伝統を豊かなものにしようではありません
か。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

協力・御指導を頂ければ、事幸いと思う
次第です。
終わりに、今後共盛岡大学と聖陵同窓
会に温かい御支援をよろしくお願ひ致し
ます。

ところで、大学をめぐる一般的な状況を
申し上げますと、厳しい状況にあるのが実
態です。少子化という大きな波が、全国の
大学、特に私立大学、その中でも中小規模
大学を襲っております。（数年後には、恐
らく現在の八割を切るであろうという数字
も示されています。）

実際に、全国の四年制大学の五割弱、短
期大学部で言いますと七割弱が、定員割れ
に苦しんでいるのが実態です。そうした中
で、私達の盛岡大学は、一度も定員割れを
起しておりませんで、これも皆様の現役
時代及び卒業後の活躍によるものであると
感謝致しております。

しかし、こうした実績に比べますと、同
窓会の活動がそれほどではないのでは、と
いうのが率直な感想です。

私は、卒業式や入学式で「卒業生が戻っ
て来てくれる大学」を掲げています。「幸
いに伴侶の方に恵まれたら、その伴侶の方
の手を引いて、子供に恵まれた方は子ども
さんの手を引いて、更に孫に恵まれたら孫
の手を引いて、『魂の故郷盛岡大学』を訪
ねてください。」と話しています。

そのためには、同窓会の活動をどうぞ活
発してください。

人数に拘わらず定期的な会を開き、継
続してください。

組織にこだわらず、可能な地域は、その
地域での会を開いてください。

そうした会には、大学からも参上するこ
とをお約束致します。

みんなによつて盛岡大学の将来は決
まってきます。

みんなと手を取り合って、盛岡大学の
伝統を豊かなものにしようではありません
か。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



盛岡大学聖陵同窓会会長
菅原 元

→学長 あいさつ



盛岡大学聖陵同窓会名誉顧問
望月 善次

→同窓会長 あいさつ

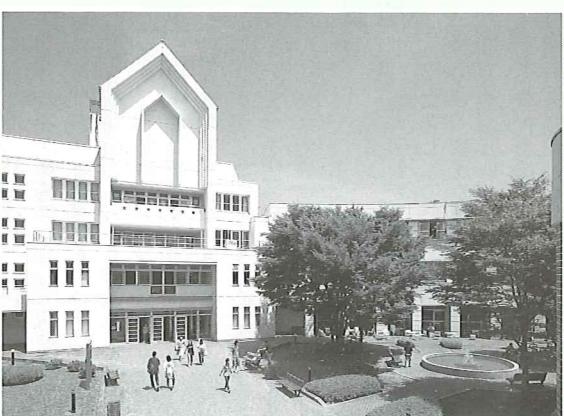
この春、盛岡大学は創立三十周年を迎えます

- ▼一九八一年四月 盛岡大学開学 文学部英米文学科・児童教育学科の2学科でスタート
- ▼一九八七年四月 盛岡大学文学部日本文学科開設
- ▼一九八七年九月 カナダ・カモーリン大学と姉妹校提携
- ▼一九八九年七月 厨川キャンパス（現盛岡大学附属高等学校）から砂込キャンパス（現在地）に移転
- ▼一九九〇年六月 盛岡大学学長・生活学園創立者細川泰子先生逝去
- ▼一九九〇年十月 高橋富雄先生学長に就任
- ▼一九九三年一月 学生会館完成
- ▼一九九三年十一月 セミナーハウス完成
- ▼一九九八年四月 太田稔先生学長に就任
- ▼一九九八年六月 加藤章先生学長に就任
- ▼二〇〇〇年四月 盛岡大学専攻科設置（英米文学・日本文学・児童教育学）
- ▼二〇〇〇年六月 陸上競技場（グラウンド）完成
- ▼二〇〇〇年九月 テニスコート完成
- ▼二〇〇五年四月 文学部社会文化学科開設、文学部英米文学科を英語文化学科と改称
- ▼二〇〇五年九月 盛岡大学新図書館開館
- ▼二〇〇六年四月 沼田俊昭先生学長に就任
- ▼二〇〇六年九月 園井英秀先生学長に就任
- ▼二〇〇七年十二月 望月善次先生学長に就任
- ▼二〇一〇年四月 栄養科学部栄養科学科開設
- ▼二〇一一年四月 盛岡大学創立30周年

年表 ~盛岡大学30年のあゆみ~



懐かしの厨川校舎



すっかり木も大きくなつた砂込校舎



同窓生による「ドリームさんさ」同窓生同士、また在学生との交流もありました。

一九八一年四月に開学した盛岡大学は、二〇一一年四月に開学三十周年を迎えます。文学部英米文学科・児童教育学科の二学科でスタートした盛岡大学も、日本文学科・社会文化学科を加え、また昨年四月には栄養科学部も設置され、総合大学となり大きく発展してきました。キャンパスも厨川五丁目から滝沢村砂込キャンパスへと移転し、施設も充実してきております。

会の目的である会員相互の親睦を図ることはもとより、母校の発展のために支援、または助言できる会でありたいと思っています。今後とも母校に今まで以上に注目していきましょう。

活躍する卒業生

平成 9 年度

文学部 児童教育学科卒

佐藤 侑子

『和のくらし小袖』勤務



盛岡に生まれ、盛岡に育ち、盛岡大学を卒業して早や十数年が経ちました。在学中は、幼稚園と小学校の教育実習も体験し、剣道部の部活に汗を流すという、学生ならではの経験を積みながら、とても穏やかな学生生活を送ったように思います。全国各地から集まつた個性豊かな学友たちに出会えたことは、今となっても財産です。在籍中は、静岡県出身の同級生や先輩・後輩なども多く、その陽気さがとても新鮮でした。土地柄による特質のようなものを感じましたが、果たしてそれは本当に地域に因るものだったのかは謎…。

大学を卒業して社会へ出ると、職場で出会う人たちもパワフルで、刺激的。友人や同僚などとスノーボードやマラソン・川下りといったスポーツやイベントを楽しみながらも、今度は海外に興味が向き始めました。“バックパック”というスタイルの旅を知り、“タイは若いうちに行け！”という当時のキャッチ・フレーズに影響されて、記念すべき人生初の海外旅行は「タイ・一人旅」。知識や語学力は悲しいかな乏しくとも、度胸だけはあったようです。幸い、ここでも人の出会いに恵まれ、未熟ながらも充実した時間を過ごすことができました。

その後、様々な国を旅し、いつも思うことは『百聞は一見に如かず』。どこも写真や文字だけでは感じ得ない、独特の空気や匂いがありました。それは旅に限らず、仕事や人生全般において通じることのように思います。振り返れば、興味の赴くままに生きてきた我が人生。五感をフル回転させて自分で感じ、吸収する…何事も、自分でやってみなくちゃ納得しない性分なんですね。現在は、着物をはじめとする“和の文化”を探求中。日本各地に伝わる伝統や産業などを知ることは興味深く、その中で私に出来ることに全力投球。外を見たからこそ感じる岩手や盛岡の風土にも気づき始めました。どこに居ても、何をしていても、大切にしたいのは人との繋がり。新しい発見や幸せは、周囲に居てくれる人たちとの関わりの中にこそあると思うから。学生のみなさん、そして私自身、これからも自分の気持ちに正直に、豊かな人生を共に過ごしてゆきましょう！

平成 8 年度

文学部 英米文学科卒

山上 尚志

社会医療法人 公徳会 米沢駅前クリニック 勤務



「凄く綺麗で立派な山ねえ。この山がお前にとっては、かけがえの無い山になるよ」

知り合いも親戚もいない岩手での大学生生活の始まり。故郷山形から岩手への引越しの際、高速道路の車中でお袋が私に掛けた言葉。当時の私はこの言葉の重みを知ることも無く、これから始まる大学生活に胸をときめかせていた。しかしながら私自身大学生活の4年間は楽しい想い出もあるけれど、若さゆえの傍若無人、自ら招いた種とはいえ、数々の苦い想い出も脳裏に刻まれている。当時の事を想い出すと赤面する以上に、現在でも罪悪感に苛まれることもある。

昨年所用で盛岡市、滝沢村に数年振りに足を運んだが、様々なビルや店舗が立ち並び、更には道路も整備され、大学生活を送っていた当時の町並みはすっかり激変していた。ふと寂しい気持ちに襲われたが、変わらない事もあった。それは雄大な岩手山の風景と、数年ぶりに再会した仲間たちとの交流。それだけでも私は大学時代にタイムスリップした心境だった。振り返って考えてみると、大学時代飲兵衛だった私を、桑原教授はじめ、仲間達はよく付き合ってくれたと思う。その部分に関しては感謝してもしきれない気持ちを現在でも抱いている。

大学卒業後、ホテルのフロント業務を中心に様々な職歴を重ねながら、現在は精神保健福祉士として認知症デイケアに勤務。患者様やご家族に接して考えることは、当然の事ながら人それぞれに喜怒哀楽の人生があるということ。時として岩手での大学生活や自身の様々な挫折した経験が、仕事上で役立つこともある。

岩手山。在学中は意識しなかったけれど、私にとってはかけがえの無い山であり、岩手山を見る度に、「岩手に帰ってきたなあ」と思う。在校生、OB の皆様方に於いては、“岩手山”を心の拠り所にしている方々も多いのではないかと、勝手に推測している。岩手山と岩手の雄大な自然風景。それらと比較して自身の思考と器の小ささに気付かされる。卒業して今春で早や 15 年の歳月が流れようとしている。

「…………まだまだ、人生これからです」

そう自分に言い聞かせながら、ゆっくりと、しなやかに人生のレールを歩いている私です。

平成 21 年度

英語文化学科卒

田村 恵



『夢を追うこと、与えること』

私は「プロのガーデナーになる」という夢を追っている。昨年の3月に英語文化学科を卒業し、園芸店で働き始めた。在学時からアルバイトはしていたが、始めは花のことなど全くの無知で、ただひたすら作業するだけだった。しかし、花の成長過程を観察することで感動を覚え、この仕事に魅力を感じていった。米粒より小さい種が発芽し双葉がでて、約1ヶ月半もすると立派な花を咲かせる。草花は人間と同じで多種多様な表情をし、毎日楽しませてくれるのだ。

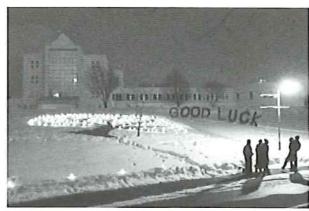
私の勤めている会社は園芸だけでなくイチゴ狩りができる施設、ゆっくりくつろげる喫茶店、果菜類を栽培するハウスがある。今大きく手がけているのが、今年の6月下旬にオープンする東北最大規模の36のテーマをもつガーデンである。四季折々の草花が楽しめる他、子どもたちの学習体験の場として、花や野菜の栽培体験などができる。親子でもっと農業に触れ合える場を提供する予定だ。場所は、岩手山の麓に位置するのだが、昔では考えられない程のお客様を毎年お迎えしている。昨年の冬にオープンしたスノーランドは大好評に終わった。スノーモービルでひっぱるバナボートや、ソリ遊びも子どもたちに大人気だった。

これらを立ち上げたのは実は、会社の代表取締役でもある私の父である。夢を追ふことを怠ってはいけないということを父から教わった。次々と夢のようなプロジェクトを確実に実行していく姿は、わたしを含む従業員、そしてお客様に夢を与えてくれる。何事にも前向きに、先を見通していく父の姿を尊敬しながら、今、私は自分の手がけたガーデンでお客様に癒しの空間そして夢や希望を与えると思って仕事をしている。

年々海外からの来店者も増え、英語を使う機会も増えた。在学時にカナダへの交換派遣留学を始め、盛岡大学で学んだことが今の自分を大きく成長させてくれていると日々実感する。大学の自然いっぱいのキャンパスが今でも大好きだ。大学時代の勉強や経験を生かし、岩手山の麓で強く元気に育つ花やいちごたちを夢と一緒に全国に発信していきたいと思っている。

「WISH」～夢灯りに願いをこめて～

盛岡大学文学部児童教育学科四年 小笠原 彩



二〇一〇年十月半ば。「夢灯り」の活動がスタートした。そして、私たち自身の未来、盛岡大学の発展、大学受験生へのエール、多くの願いを込めた有志団体「WISH」という名称で、雪を転がして大きくなるようにどんどん仲間が増えていった。本格的に始動した年明け、キャンドルライトを作成するにあたり、ペットボトルを回収し、洗って、乾かして、切って、色を塗つての作業を繰り返した。二月十日苦労の甲斐あって点灯した当日の感動は言葉に出来ないものであった。想像を超える感動であった。また、「WISHLAND」といった雪で遊べる空間をつくり、松園幼稚園の園児たちと、滑り台やかまくら、的あて等を行なった。その中でも大好評だったのは雪の中にみかんを埋めて掘り起こすみかん探しゲームである。子どもたちの笑顔を見て、とても嬉しく思った。

活動を振り返ります一番に浮かぶのは「感謝」という言葉だ。かけがえのない仲間に出会えたことに感謝したい。この学び舎で、仲間と共に夢を追いかけられたのは、支えてくれた両親の存在、導いてくれた先生方のおかげである。この思いを忘ることなく、これから的人生を実りあるものにしていきたいと思つ。

最後に、一言ずつメッセージを送りたい。卒業を目前に亡くなつた学友へ。あなたと共に過ごした日々を一生忘れない。生きたくても生きることのできなかつたあなたの分まで、精一杯生きることを誓いたい。

出会いてくれたみんなへ。辛くじけそうになつても一緒に夢に向かって共に時間を過ごしてきた仲間がいることを忘れないでほしい。

同窓会の皆様へ。今回私たちの活動に協賛して下さり、ありがとうございました。盛岡大学で四年間学ぶことができた私は幸せです。これからも、後輩たちをよろしくお願い致します。

事務局便り

平成 21 年度 聖陵同窓会決算報告 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

収入の部		(単位:円)
項目	予算額	決算額
入会金	1,790,000	1,645,000
終身会費	3,650,000	3,350,000
雑収入	100,000	82,154
特定預金取崩収入	120,000	91,350
計	5,660,000	5,168,504
繰越金	2,006,529	2,006,529
合計	7,666,529	7,175,033

支出の部		(単位:円)
項目	予算額	決算額
事業費	1,762,000	1,623,893
事務費	100,000	330
通信費	700,000	582,160
会議費	150,000	18,275
慶弔費	100,000	65,422
旅費交通費	100,000	5,000
財政基金繰入支出	3,000,000	3,000,000
予備費	1,754,529	0
計	7,666,529	5,295,080
繰越金	0	1,879,953
合計	7,666,529	7,175,033

誌面でもお伝えしたとおり今年は母校創立三十周年という記念の年です。大学と協力しながらこの素晴らしい年を盛り上げていきたいと思つています。昨年に引き続いてのオリジナルグッズの作成をはじめ、ホームページ、オリジナルキャラクターの募集、記念講演会、記念試合など様々なアイディアが寄せられています。

盛岡大学への入学生も同窓生のご子息がずいぶん増えてきているようです。これまでの思い出を語り合い、次の十年への助走となるようみなさんと力をあわせてこの一年もがんばつていただきたいと思います。

お正月を前後しての今年の大雪には本学キャンパスも停電がしばらく続き、中庭の木も雪の重みで折れるなどの被害がありました。幸い講義には影響がなかつたものの自然の猛威の前には弱きものであることを改めて感じさせられた新年のスタートでした。

インフォメーション

小林 稔 先生逝去
大典)先生が昨
月学長と風丸学生部長をお迎えし、
二十二年度の役員会を開催しました。
お二人の先生から同窓会への
エールと貴重なご意見をいただき、
ぜひ今後の活動に活かしていただき
と思いました。また今回の役員会には
は学外から三人の同窓生の方に参加
していました。開催時期等を
工夫して少しでも多くの同窓生の役
員の方にも参加していただき叱咤激
励をいた
だきなが
ら、さら
に同窓会
活動を活
性化して
いきたい
と思います。



卒業を間近に控えたあまりにも突然の逝去に、学生、教職員一同、言葉を失いました。明るい未来が待っていたはずなのに、このような事故で短い生涯を終えたことです。本当に残念でなりません。卒業生のみなさまと共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

上野 悠太 君逝去
盛岡大学文学部社会文化学科四年の上野悠太君が二月九日水曜日、八幡平市の安比高原牧場スノーモービルランドで実施されていた学外授業中に急逝しました。スノーモービルにインストラクターと搭乗中、立木に衝突したものです。

卒業を間近に控えたあまりにも突然の逝去に、学生、教職員一同、言葉を失いました。明るい未来が待っていたはずなのに、このような事故で短い生涯を終えたことは本当に残念でなりません。卒業生のみなさまと共に、ご冥福をお祈り申し上げます。



小林 稔 先生逝去

盛岡大学文学部日本文学科教授を務められた

ト報

編集委員

吉田典子(昭和60年度卒)/川村匡世(昭和62年度卒)/三戸淳一(昭和62年度卒)/佐藤大裕(平成12年度卒)/上條尚樹(平成15年度卒)
吉田智子(平成15年度卒)/川田彩乃(平成20年度卒)

この4月、大学は大きな節目30周年を迎えます。それを意識してこの第14号を編集しました。第15号を迎えるにあたり編集委員一同今からやる気満々です。会員の皆様からの御意見をお待ちしております。